

平成31年3月22日

地域包括支援センター運営協議会

## 地域ケア推進会議（平成30年度における会議の実績報告）

### 1 主旨

地域包括ケアシステムを実現する手段の一つとして、開催を推進している地域ケア会議について、市全域における課題把握等を行う地域ケア推進会議を開催するもの。

本日の会議においては、平成30年度における会議の実績を報告するとともに、今後の事業展開の方向性について共有する。

### 2 地域ケア会議の概要

#### （1）目的

地域ケア会議は、課題を抱えた個人の支援内容の検討による課題解決を出発点として、関係者間のネットワークの構築、地域課題の把握等を行うことを目的としている。

また、個別ケースの支援内容の検討を積み重ねることによって、当該地域において共通する課題や要因を見出すことができ、その地域に不足している社会資源の開発、新たな仕組みづくりに向けた政策形成などに繋げることができると想定している。

#### （2）5つの機能（それぞれが相互に連携・循環）

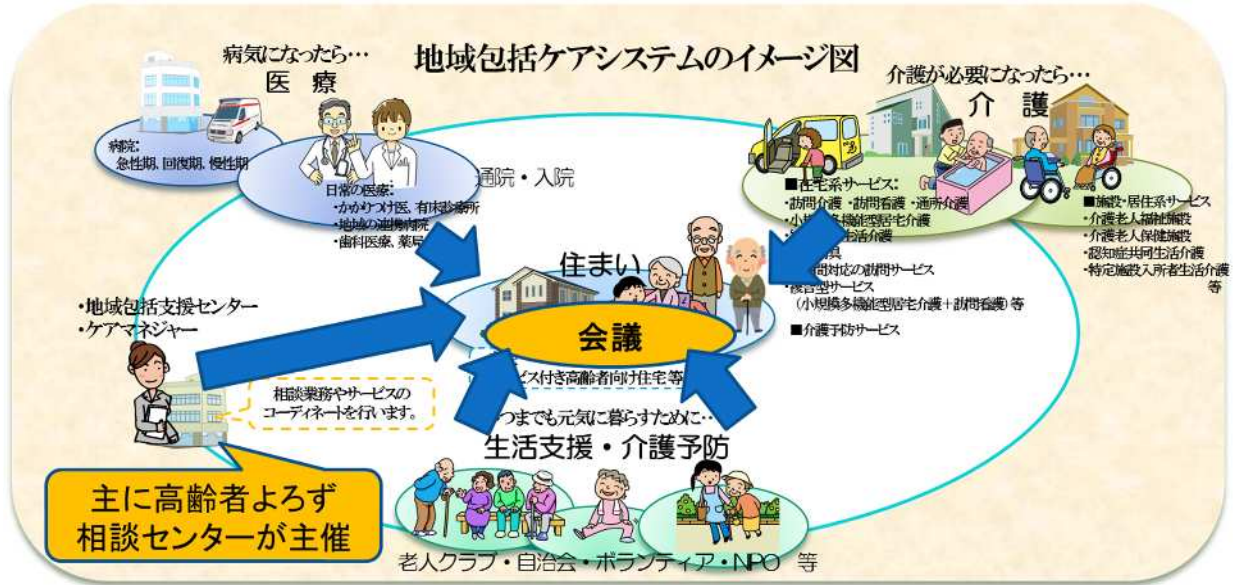
|   | 機能               | 具体的内容   |
|---|------------------|---|
| 1 | 個別課題解決機能         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援のためのケアマネジメントの質向上</li> <li>・支援困難事例等に関する相談、助言</li> </ul>  |
| 2 | 地域包括支援ネットワーク構築機能 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民との情報共有（連携力の向上）</li> <li>・関係機関の役割の明確化</li> </ul>           |
| 3 | 地域課題発見機能         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別ケースの背後に同様のニーズを発見</li> <li>・検討した地域課題の解決策を関係者で共有</li> </ul> |
| 4 | 地域づくり・資源開発機能     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの活動内容、得意分野を活用</li> <li>・必要な地域資源を地域で開発</li> </ul>        |
| 5 | 政策形成機能           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村、県、国への施策の提言</li> </ul>                                   |

地域ケア会議運営マニュアルP23～25参照（説明欄は抜粋）

#### （3）目指すべき姿

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた1つの手法である。地域包括ケアシステムを構成する各分野（医療・介護・住まい・生活支援・介護予防）の連携を通して、「地域で尊厳のあるその人らしい生活の存続」ができるため5つの機能を備えた地域ケア会議を活用する。

【参考：地域包括ケアシステムにおける地域ケア会議のイメージ図(厚生労働省資料加工)】



(4) 平塚市における地域ケア会議の分類

ア 第1層：地域ケア個別会議

個別課題の解決、介護支援専門員による自立支援の方針を決定する。個別事例の解決を蓄積することにより、地域課題を明らかにする。

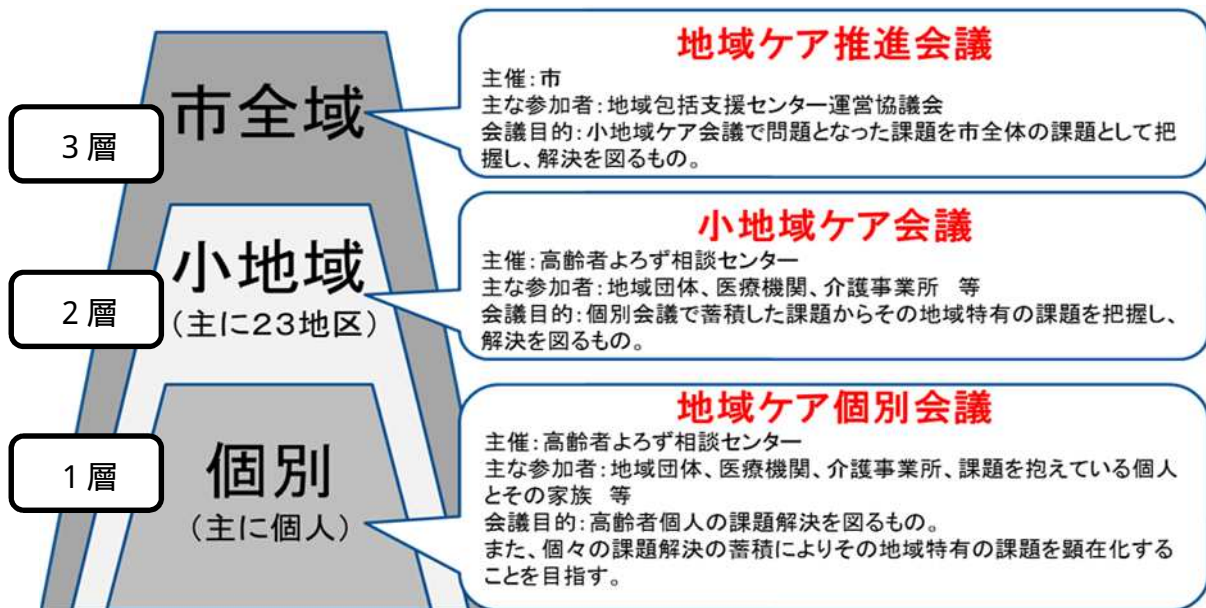
イ 第2層：小地域ケア会議

小地域の課題の把握および対応を検討する。地域ケア個別会議で出された個別課題で小地域に共通する課題を検討する。

ウ 第3層：地域ケア推進会議

市における地域課題の把握および対応を検討する。小地域ケア会議で検討された課題で小地域の圏域内では解決できない市全域に共通する課題を検討する。

【参考：地域ケア会議の構造イメージ図】



### 3 平成30年度の会議開催実績等

#### (1) 会議開催数(平成30年4月～平成31年3月)

- 地域ケア推進会議：1回
- 小地域ケア会議：69回
- 地域ケア個別会議：24回

#### 【各包括圏域別開催実績】

| 包括名 | あさひきた | あさひみなみ | おおすみ | 倉田会 | ごてん | サンレジ | とよだ | にし | 富士白 | ふじみ | まつがおか | みなと | ゆりのき |
|-----|-------|--------|------|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-------|-----|------|
| 個別  | 1     | 3      | 3    | 1   | 1   | 0    | 0   | 2  | 4   | 2   | 4     | 2   | 1    |
| 小地域 | 3     | 5      | 2    | 2   | 2   | 5    | 2   | 35 | 3   | 2   | 2     | 2   | 4    |

ひらつかにしの小地域ケア会議の開催数はサロン単位の会議開催数も含む。

まだ開催していない会議は予定の件数を含む。

#### (2) 会議における議論内容等

高齢者よろず相談センター(以下「包括」という。)からの報告書及びヒアリングにより収集した主な意見をまとめたもの。

##### ア 地域ケア会議を開催する経緯(開催するきっかけ)

地域ケア個別会議においては、近隣住民、ケアマネジャー、地域団体からの相談により会議開催に至る例が多い。

小地域ケア会議においては、関係団体と調整のうえ、定期開催をしている例が多い。

##### イ 地域ケア会議の開催を通して発見された地域課題

サロン等に参加しない高齢者、地域と関わりのない高齢者、支援を望まない高齢者(閉じこもり高齢者)をどのように支援していくか課題である。

地域の団体では独居高齢者以外の支援が必要な高齢者の把握が難しい。

独居の認知症高齢者等に対して認知症等の正しい知識や周囲の理解が不十分である。

一人暮らしの認知症高齢者への地域での見守りが課題である。

##### ウ 発見された地域課題の解決方法

認知症の方とその家族の方への支援策として、認知症カフェの立ち上げをする。立ち上げにあたっては、地域にいる認知症サポーター上級研修受講生と地域団体と協力しながら進める。

閉じこもり高齢者への支援策として、積極的な情報発信を行う。包括が発行する介護予防教室等のチラシについて、可能な地区は全戸配布が行い、今まで教室等に参加していない人の目にも留まるような対応をする。

#### エ 地域ケア会議を開催して得られたメリット

地域資源の共有ができ、充実している資源と不足している資源が明らかになった。

地域において、課題の共有、連携体制の強化が図れた。

複合的な課題について、行政や医療関係者も参加することで、各分野の連携を強化し、多職種で課題解決を図ることができた。

地域団体の協力が得られた形で認知症カフェを立ち上げることができた。

地域全体で課題の共有化ができたことにより、住民主体のサロンを立ち上げることができた。

#### オ 地域ケア会議の開催を通して発見された地域の社会資源

地域での見守り、声かけ支援を行う団体（配食サービス、近隣の八百屋、電気屋、生活用品雑貨屋、不動産屋など）が発見できた。

マンション管理人による見守り支援が発見できた。

地域内にある新たな活動スペース（地域の団体が集まれる場所）の発見ができた。

#### カ 地域ケア会議を開催するうえでの今後の課題

個別ケア会議の開催に繋げるために、地域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーへ積極的な周知を行う必要がある。

個別ケア会議において、会議を開催するに際し、本人の同意がとれないことがある。（会議開催に至るまでの関係を気づくことが難しい。）

#### キ 地域ケア会議から抽出された行政への提言

閉じこもり高齢者への支援のために、地域にどのようなニーズを持った高齢者がいるのか把握をする必要がある。

### 4 地域課題への今後の対応（閉じこもり高齢者への支援）

平成30年度の地域ケア会議において、多数の包括から地域課題として閉じこもり高齢者についての課題が挙げられた。

閉じこもり高齢者への支援について、まずは実態把握をすることを検討している。

平成31年度に市内13地区の日常生活圏域ごとに実施する「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」において、圏域ごとに閉じこもりの傾向などを把握することを予定している。また、「平成31年度平塚市地域包括支援センター事業計画」において、閉じこもり高齢者の把握について取り組み重点事項として新たに設定している。

市内においても地域差があるため、それぞれの圏域を管轄している包括とともに、まずは実態把握をすることを考えている。

地域ケア推進会議（地域包括支援センター運営協議会）においても「閉じこもり高齢者の把握、社会参加への効果的な取り組み等」について、ご意見をいただきながら、事業の推進を目指す。

以上